

- 1 闇は深まり 夜明けは近し。
あけの明星 輝くを見よ。
夜ごとに嘆き、悲しむ者に、
よろこびを告ぐる 朝は近し。
- 2 おさな子となり 僕となりて
み神みずから この世にくだる。
重荷を負うもの かしらを上げよ、
信ずるものはみな 救いを受けん。
- 3 闇は去りゆく。 目さめて走れ、
救い秘めたる あの馬小屋へ。
恵みの光 照り輝きて
悩み悲しみは もはやあらず。
- 4 闇の中にも 主は歩み入り、
かけがえのない われらの世界
死の支配より 解き放ちたもう。
来たらしめよ 主よ、み国を。

T Jochen Klepper M : Johannes Petzold

- 1 Die Nacht ist vorgedrungen, der Tag ist nicht mehr fern!
So sei nun Lob gesungen dem hellen Morgenstern!
Auch wer zur Nacht geweinet, der stimme froh mit ein.
Der Morgenstern bescheinet auch deine Angst und Pein.
- 2 Dem alle Engel dienen, wird nun ein Kind und Knecht.
Gott selber ist erschienen zur Sühne für sein Recht.
Wer schuldig ist auf Erden, verhüll nicht mehr sein Haupt.
Er soll errettet werden, wenn er dem Kinde glaubt.
- 3 Die Nacht ist schon im Schwinden, macht euch zum Stalle auf!
Ihr sollt das Heil dort finden, das aller Zeiten Lauf
von Anfang an verkündet, seit eure Schuld geschah.
Nun hat sich euch verbündet, den Gott selbst ausersah.
- 4 Noch manche Nacht wird fallen auf Menschenleid und -schuld.
Doch wandert nun mit allen der Stern der Gotteshuld.
Beglänzt von seinem Lichte, hält euch kein Dunkel mehr,
von Gottes Angesichte kam euch die Rettung her.
- 5 Gott will im Dunkel wohnen und hat es doch erhellt.
Als wollt er belohnen, so richtet er die Welt.
Der sich den Erdkreis baute, der lässt den Sünder nicht.
Wer hier dem Sohn vertraute, kommt dort aus dem Gericht.

ルカ第21章28節 「これらのことが起こり始めたら、身を起し、頭を上げなさい。あなた方の贖罪が近づいているからです。」（新改訳版）

本日のルカによる福音書は、世界が深刻な危機に襲われる時代の到来を、イエス様が弟子たちに対し語ったものです。その時、国と国、民族と民族の対立が起き、大きな地震に加え、飢饉や疫病が方々に発生しても、時が満ちれば、イエス様が来られると預言されていました。

古代教会は、アドベント（待降節）を、こうした切迫感のなかで、過ごしていたと推察されます。現代の私たちにとって重要なのは、自分の「身を起し、頭をあげて」いることです。

日々の暮らしや仕事に追い立てられる現代人の心には、「贖罪（救い）の時は近い」などという言葉は容易には理解されないでしょう。同時に、豊かさに、この時代に満足した人にも、新たな「道」を切り開く使信は、聞こえてこないでしょう。

確かに古代教会の人たちは信じていたけれど、イエス様は来られなかったし、何も起きなかったという反論は、人類の歴史のなかで、繰り返されてきたと思います。

人類が様々な危機に直面するなかで、新たな道がひらかれなかったと、あなたは思いますか。もし、そう思われるなら、私は、次のように言いたいのです。私たちが、信じようとせず、希望もしないなら、あなたには、新たな世界が見えてこないのだと。

もし、アドベントにおいて、新たな世界が開けることを心から待つことができるなら、私たちは、新しい人間へと成長できるかもしれません。この世に絶望し、恐れと悲しみと苦しみにとらわれ、何にも感動もせず、希望もなく意気消沈するのをやめましょう。未来を向いて生きましょう。あなたには、コロナ危機を超え、日本の経済が進む道は見えてきませんか。

コロナ危機は、確かに、日本経済の持つ多くの弱点をあぶりだしたと思います。

第1に、1990年代半ば以来のデフレーションで賃金・個人消費が低迷するなか、小売・飲食・宿泊サービスの低生産性が深刻化していたことです。

特に、消費不況で、この業界が非正規雇用への依存度が高めていたなかで、コロナ危機による消費収縮の大打撃が襲いました。今後デジタル化で業界の生産性を改善できても、零細企業の淘汰や再就職できない失業者の増加、正規雇用の停滞と非正規雇用の増加で、国内では人材をめぐる需給ミスマッチが深刻化すると思われる。

第2に、製造業のサプライチェーンの脆弱さです。何度も、災害や経済危機を経験してきたのにリスク管理が進まず、立地の分散化や人材の確保も遅れたのです。

特に、中国の生産拠点への依存度は依然高く、東南アジア・南アジアの現地法人との複数の連携を強化するには、相当の時間がかかると予想されます。

第3に、第四次産業革命を担う人材養成の遅れです。それは、IT分野における専門的人材の養成の遅れに顕著にあらわれています。

特に、科学技術分野において、日本では、政府の研究開発予算が抑制されてきた影響は大きいと思います。近年、大卒就職市場で売り手市場が続き、その結果、日本の大学院進学率が顕著に低下したことは、人材養成を巡る危機的状況を象徴しています。

高度(ハイスキル)人材の養成・確保には、時間と人数に相当の時間がかかるうえ、世界的な人材獲得競争はし烈になっています。

残念ながら、日本の大学は欧米大学との連携があまりに脆弱です。日本の人材の卵は、欧米の研究機関で潜在能力を開花させる機会を得なければなりません。国内の研究体制も十分でないなか、日本の人材が新興国に流出する現象は、1980年代後半から現在まで、繰り返し起きているのです。

第四次産業革命下の人材開発においては、ハイスキル人材が技術を独占するのではなく、ミドルスキル人材及びロースキル人材がこれを学び、実践できる環境を実現することは、もっと重要だと思われます。こうして、「技術」と「労働」の間に補完性を築いていくことができるからです。

AIやビッグデータによる新たな技術が、労働を置き換えられることを、おびえている必要はありません。むしろ、ミドルスキルやロースキルをパワーアップし、生産性と賃金水準を高めて、新たな中間層を形成することが重要です。

このような人材開発によって、技術進歩の成果を、賃金上昇に反映させる戦略は実行可能です。地域に人材が集まる環境を整備し、国内の設備投資を促し、地方都市がアジアとの経済連携を強化することを目指したいと思います。

それに、労働賃金の上昇と国内消費の増加は、日本のデフレーションからの脱却にとって不可欠の前提のほずです。

現在、新型コロナウイルスの感染の第三波のなかで、クリスマスと新年を迎えることになってしまいました。自分の身近で感染された方々を覚え、医療のひっ迫が迫っていることをひしひしと感じるなかで、「身を起し、頭を上げなさい」という言葉思い出しましょう。自分のかかえる困難や苦しみに囚われず、もっと横でつながり、さもないと孤立していく人たちを、真剣に支えましょう。

そして、世界的な危機のなかで、神様がこの世に介入されて、私たちに、知恵と勇気を与えてくださるよう祈りましょう。

2020年の経済学部チャペルアワー(金)の「経済学と聖書」で、皆様におかれては、一緒に聖書を読んで、讃美歌を歌わせていただき、心から感謝しています。

皆さんが、どこにおられても、聖書を読むことで多くのことを発見し、生きる知恵と勇気を授かることを祈っております。

不安や危険にもかかわらず、皆さんの心が、この瞬間あっても、平安で満ちますように。心ゆたかなクリスマスと、希望に満ちた新年を迎えられますように。2021年は、1月8日(金)のチャペルアワーで、お会いしたいと願っております。